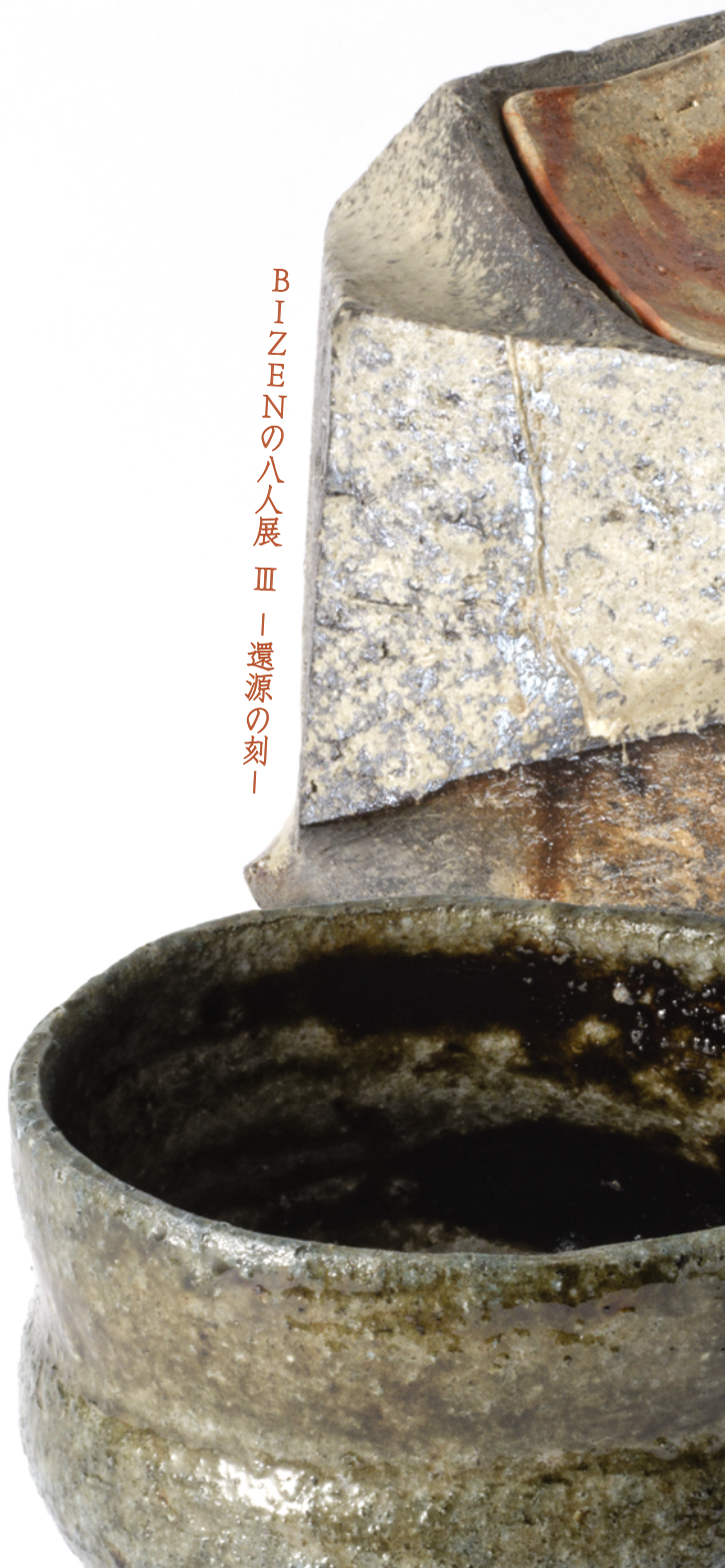


B I Z E N の 八 人 展 Ⅲ
― 還 源 の 刻 ―



BIZENの八人展 Ⅲ ー還源の刻ー

会 期 令和7年12月13日(土)～18日(木)

会期中無休

開廊時間 11:00～19:00

※ 最終日の12月18日(木)は17:00まで

出品作家 伊勢崎晃一朗 [12月13日(土)～15日(月)]

[在廊予定日] 瀧川卓馬 [12月15日(月)～16日(火)]

石田和也 [12月14日(日)～15日(月)]

豊福 博 [12月16日(火)～17日(水)]

近藤正彦 [12月16日(火)～18日(木)]

森 一朗 [12月14日(日)～17日(水)]

高島聡平 [12月13日(土)～16日(火)]

松本優作 [12月15日(月)～16日(火)]

会 場 柿傳ギャラリー

KAKIDEN GALLERY

〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-37-11

安与ビル 地下2階

TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335

MAIL gallery@kakiden.com



柿傳ギャラリー HP



公式 Instagram



戦後八十年、日本の陶芸は目まぐるしく発展してきました。その間に様々な技法、造形が出揃った観があります。日本ほど陶芸の盛んな国はありません。世界で高く評価された日本の陶芸を見ますと、日本的な美意識や伝統の技を基本とし、自由な精神で表現した造形作品が多いようです。そこで、今展のテーマを「還源（げんげん）の刻（とき）」としました。還源とは「本源に還る」という弘法大師の言葉ですが、ドイツの哲学者ハイデッガーも「芸術作品の根源を問うことは、芸術の本質を問うことである」と言っています。古い既成概念に捉われず、精神の自由をもつて、備前の土と真摯に向き合い、その魅力を世界に発信して欲しいと思います。

伊勢崎晃一朗は、これまで茶盤を作るに当たって手捻りで制作していましたが、数年前に白土と出合って、はじめて轆轤で挽くようになりました。

豊福博の《自然練込水指》は、粘土を掘りだしたままの状態で表現する自然練込の作品です。六角形を基本に面と面を複雑に組み合わせた造形で、見る角度によって姿が変わります。また、色違いに焼き上がった蓋や青灰色と緋色のコントラストが素晴らしい水指です。

近藤正彦の《引黒茶盤》は備前の土で成形し、黒の顔料を化粧掛けした杓形の茶盤です。窯焚き終盤に窯の中から作品を引出し、急冷で割れないようサヤ（容器）に移して冷まします。黒の顔料は炎により様々な景色を作り出します。この茶盤は、その変化が見どころです。

森一朗の《窯変崩五角花入》は大地の力を集約し、備前の力強さを表現した作品です。石膏型による制作で、崩れた五角形の口部とその周りの造作が豪快です。全体の景色は灰被りの窯変で、花入を

それは「土の個性がそうさせたのであって、僕は素材に救われたと思っっている」と、《白茶盤》誕生の秘話を語っています。

瀧川卓馬の《馬香合》は土で原型を作り、石膏で型を取り、それを基に制作したものです。来年の干支は午（馬）ですが、昔から馬ほど人生に直接役立ち、直接多くの意義をもっているものはありません。愛馬や名馬、龍馬、天馬、神馬という言葉が、それを物語っています。

石田和也の《備前磁器茶盤》は、備前にある陶石の鉱山で自ら採掘した磁土で成形し、薪窯で焼成した窯変の茶盤です。「この太古から備前の地に眠る素材で、自分なりの世界をどう作り上げられるか」をテーマとして、備前の磁器に挑戦しています。

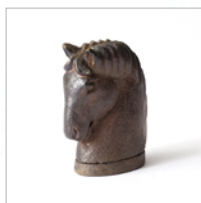
支えるための貝殻の跡や棚板から降った灰などの模様が何とも魅力的です。

高島聡平の《備前緋色盤》は新しく作り直した穴窯で焼成した、いままで見えたことのない焼けの茶盤です。やきものの源である備前土の特性を追求し、圧倒的な発色の良さと上下の火色のコントラストを表現しています。光悦の赤楽茶碗「乙御前（おとごぜ）」風の高台がユニークです。

松本優作の《花器》はシンプルな下蕪型の備前焼の花器ですが、真つ直ぐに立ち上がった太い頸がとてもしっかり、安定感のある造形を成しています。青味がかったボディーには、茶胡麻や黒焦げが見え、美しいコントラストに仕上がっています。

森 孝一

（美術評論家・日本陶磁協会常任理事）

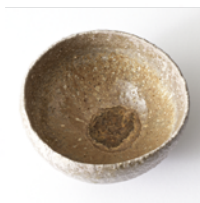


瀧川卓馬

Takikawa Takuma

昭和52年 兵庫県生まれ
平成11年 倉敷芸術科学大学 卒業
平成14年 島村 光に師事
平成25年 備前市久々井に工房を構える

馬香合
W7.2×D3.6×H9.1cm



伊勢崎晃一郎

Isezaki Koichiro

昭和49年 岡山県備前市伊部に人間国宝 伊勢崎 淳の長男として生まれる
平成8年 東京造形大学 彫刻科 卒業
平成10年 渡米 ニューヨーク在住の陶芸家 ジェフジャピロ氏に師事
平成12年 帰国後、父 伊勢崎 淳に師事
平成21年 第26回 田部美術館 茶の湯の造形展 奨励賞 (平成24、28年)
平成22年 第53回 日本伝統工芸 中国支部展 日本工芸会賞
平成26年 第15回 福武文化奨励賞
令和2年 伊勢崎晃一郎展 成る (LIXIL ギャラリー、東京)
令和5年 2022年度 日本陶磁協会賞、マルセン文化賞

白茶
W14.4×D14.4×H8.0cm



豊福 博

Toyofuku Hiroshi

昭和48年 埼玉県生まれ
平成8年 国際基督教大学 卒業
平成10年 備前焼作家 川端文男に師事
平成14年 第53回 岡山県美術展覧会 岡山県知事賞
平成18年 岡山県和気郡和気町吉田にて独立
平成21年 第26回 田部美術館大賞「茶の湯の造形展」優秀賞
平成29年 第64回 日本伝統工芸展 入選
令和4年 第9回 陶美展 高島屋賞 (優秀賞)
令和7年 第68回 日本伝統工芸中国展 鳥取県知事賞
現在、日本工芸会 正会員

自然練込水指
W21.0×D21.0×H19.0cm



石田和也

Ishida Kazuya

昭和61年 岡山県備前市に生まれる
平成19年 備前焼人間国宝伊勢崎淳に師事
平成22年 国民文化祭美術展奨励賞
平成23年 渡英イギリスの工房で経験を積む
平成25年 帰国備前に工房を構え独立
平成27年 第58回 日本伝統工芸中国支部展教育長賞
平成28年 オックスフォード大学 (英国) 客員研究員として招聘される
令和元年 岡山アワード作家/クリエイター賞
令和2年 備前市で採掘した磁器土での作品制作を始める
令和6年 備前磁器の世界展 (岡山県天神山文化プラザ)
令和7年 第31回 エネルギー賞 美術賞受賞、第11回 菊池ピエンナーレ奨励賞
第72回 日本伝統工芸展入選

備前磁器茶盃
φ13.5×H9.5cm



森 一郎

Mori Ichiro

昭和56年 備前焼窯元六姓 森家の家系に生まれる
平成18年 東京藝術大学 美術学部 彫刻科 卒業
平成20年 東京藝術大学 大学院 美術研究科 彫刻専攻 修了
平成25年 秀桜基金留学賞を受賞し、オランダ、英国等を遊学
平成26年 穴窯を築く

窯変崩五角花入
W24.5×D21.5×H33.0cm



近藤正彦

Kondo Masahiko

昭和46年 岡山県倉敷市に生まれる
平成6年 京都市立工業試験場 本科 卒業
平成8年 隠崎隆一に師事
平成9年 第48回 岡山県美術展覧会 奨励賞 (同 平成18、21、22年)
平成13年 第18回 田部美術館大賞「茶の湯の造形」展 入選
(同 平成18、21、22、25、26、28、29、30年、令和2年)
平成17年 第22回 田部美術館大賞「茶の湯の造形」展 奨励賞 (同 平成24年)
第52回 日本伝統工芸展 入選 (同 平成18、19、21、25年)
平成21年 日本工芸会 正会員認定
平成25年 第56回 日本伝統工芸中国支部展 岡山市長賞
平成30年 第69回 岡山県美術展覧会 岡山教育長賞
令和5年 日本伝統工芸中国展 NHK広島放送局長賞

引黒茶盃
W13.5×D12.5×H8.5cm



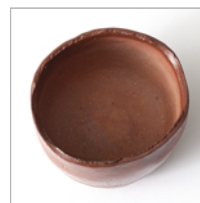
松本優作

Matsumoto Yusaku

昭和49年 岡山県瀬戸内市に生まれる
平成12年 備前陶芸センター 入所
平成13年 備前焼作家 脇本博之に師事
平成18年 陶芸美術館展覧会 優秀賞
平成20年 初窯を出す
平成21年 播磨工芸会賞、陶芸財団展 陶芸大賞、神戸ビエンナーレ 入選
平成22年 第27回 田部美術館大賞「茶の湯の造形展」入選
平成25年 第56回 日本伝統工芸中国支部展 入選 (同 平成26、27年)
平成28年 第67回 岡山県美術展覧会 奨励賞

花器

W13.5×D13.5×H18.0cm



高島聡平

Takashima Sohei

平成3年 北海道釧路市に生まれる
平成26年 道都大学 (現 星槎道都大学) デザイン学科 卒業
伊勢崎 淳に師事
平成28年 岡山県美術展覧会 入選 (平成30年、令和元年)、奨励賞 (平成29年)
平成29年 第34回 田部美術館「茶の湯の造形展」入選 (令和2、3、4年)
平成30年 第5回 陶美展 奨励賞、日本伝統工芸展 中国支部展 入選
令和元年 第12回 現代茶陶展 入選 (令和2、4、5年)、現在形の陶芸 萩大賞展 V 佳作
令和2年 日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 中国・四国 展 奨励賞
令和4年 日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 中国・四国 展 受賞記念 個展 (柿傳ギャラリー)
令和5年 うつつわや涼一石にて個展
現在、瀬戸内市牛窓町長浜にて制作

備前 緋色 鉢

φ10.5×H8.1cm

これまでの弊廊での「BIZEN」展



BIZEN の六人展 ―離陸の刻―
令和3年10月22日(金)～10月28日(木)



BIZEN の八人展 II ―造形と素材―
令和5年12月11日(月)～12月17日(日)



新宿で大人の道草を。
粋道ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

弊廊のある「安与ビル」が国の登録有形文化財に登録されました。

価格表

	作家名 作品名		本体価格/円 (税込価格/円)	作品サイズ (cm)
1	伊勢崎晃一朗 白茶盃 [桐箱付・後日]	P6	200,000 (220,000)	W14.4×D14.4×H8.0
2	瀧川卓馬 馬香合 [桐箱付・後日]	P7	30,000 (33,000)	W7.2×D3.6×H9.1
3	石田和也 備前磁器茶盃 [桐箱付]	P8	100,000 (110,000)	φ13.5×H9.5
4	豊福 博 自然練込水指 [桐箱付・後日]	P9	180,000 (198,000)	W21.0×D21.0×H19.0
5	近藤正彦 引黒茶盃 [桐箱付・後日]	P10	100,000 (110,000)	W13.5×D12.5×H8.5
6	森 一朗 窯変崩五角花入 [桐箱付・後日]	P11	180,000 (198,000)	W24.5×D21.5×H33.0
7	高島聡平 備前 緋色 盃 [桐箱付・後日]	P12	70,000 (77,000)	φ10.5 × H8.1
8	松本優作 花器 [桐箱付・後日]	P13	65,000 (71,500)	W13.5×D13.5×H18.0

160-0022

東京都新宿区新宿3-37-11

柿谷ギャラリー
KAKIYAGI GALLERY